

研究科について

About Us

研究科について

研究科長からのメッセージ

教育理念と目標・計画

情報科学研究科の組織

歴史・沿革

キャンパス環境

フロアマップ

ヴォイス

教員一覧

専攻・講座について

研究科ニュース

研究活動・産学官連携

教育活動・学務情報

入試情報

就職情報

広報・発行誌

研究科からのお知らせ

関連リンク

交通アクセス

HOME > 研究科について > ヴォイス > ヴォイス1・第3回

ヴォイス1・就職企画室インタビュー第3回

どの専攻の学生にもチャンスは公平にあるように



情報科学研究科 2011年度就職企画室室長
教授 金子 俊一

企業に対する責任、大学に求められる責任、学生に求める責任

――昔は学校推薦が発行された企業には事実上内定という時代がありましたが、現在では学校推薦の「後付け」など、学校推薦の意味合いが変わったのだと思うこともあります。今の学生の親御さんは、「学校推薦＝内定」という価値観の時代の方が多いでしょうから、学校推薦については気になる方が多くいると思います。

金子 確かにいろいろな要因で、企業の学校推薦の見方は変わってきているかもしれませんが、理論的に学校推薦を出した学生が内定をもらえないということはありませんが、その場合には大学側の問題でもあるんです。ある企業に推薦するとき、その企業の仕事の厳しさ、難しさに対応できる学生を学内できちんと選抜して、その結果で推薦しているのかということですね。そういう意味では、就職企画室の学校推薦についての見方はそれほど変わっていません。

しかし現状は学内で厳選しているとは言えないですね。第2回の進路ガイダンスの資料の「学校推薦のあり方」という項目に、学校推薦が出るまでのプロセスが書かれています。去年までは第一志望の扱い方について、「内部選抜は原則として行わない」という一文があって、これが「研究科で学校推薦を出す学生を選ぶことはしない」ということを意味していたんです。でも僕は、これは世間的にはおかしいと思って、就職企画室で議論をしてからその一文を消したんです。

去年までの、学生の第一志望が全部通るような説明はおそらく、学生が浮つかないように配慮した結果なんだろうね。でも今年の資料ではその説明を変えて、学生が学校推薦の希望を出した後に「研究科で承認する」というプロセスを入れて、進路のアンケート調査で第一志望に書いた企業が学校推薦で通らないということも起こり得る、ということを示しました。選んでもいない5人なら5人全員に学校推薦を出して全部採ってください、という約束を企業にすることはできません。こちら側はちゃんと選んで責任をもって推薦するから落とさないでくださいね、と企業の人に言うことができる。だから、世間の「学校推薦」に対する意味合いが変わってきたことについて「責任」という言葉を使うなら、大学側の責任もあるんですよ。

学生をちゃんと選ぶには、学生にそれなりのGPAを必要とする、といった何らかの基準が必要になりますよね。僕はそういう意識を高めるうえで、学生に自分のGPAを計算しなさいよ、と言いました。成績が全てとは言わないけれども、もし二人の学生から一人を選抜するとき、研究能力や他の能力が全部一緒だったら、最終的には僕は文句なくGPA、つまり成績で選抜します。特に国立大学は講義や実験が必修制ですから、大学が示したルールに沿って良い成績をとったら、その大学がつくろうとしている人間になれるんだぞというものを用意しているはずですよ。それが大学の「カリキュラム」ですから。カリキュラムに沿って努力した学生がGPAが良くなっているはずですから、GPAの良い方の学生を企業に推薦する。そうでなかったら、北大の、大きくいうと大学の存在する意味はなくなってしまふ。GPAがより高い学生が行きたいところに行けるようにするという責任を僕らも持っている。だからこそ学生には厳しいことが言える、と僕は思っています。

サイト内検索 Google

検索

情報科学研究科
公式twitter

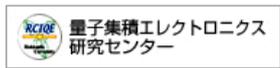


グローバルCOEプログラム

「知の創出を支える
次世代IT基盤拠点」

ERATO
基礎構造処理系プロジェクト

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク
Hokkaido University Sustainability Weeks



内部選抜を「必ず行う」とは言っていませんけど、僕の専攻の学生には「推薦はするけれども君のGPAだと危ないぞ」という指導をしましたよ。学生が自分のGPAと自分のキャリアビジョンも考えながら、「その会社に自分が行って働ける能力はあるのか？その根拠を企業の人事の人に伝えられるのか？」と考えるように指導をしたうえで第一希望になってほしいですね。そういう意識をもった学生が第一希望に採用されていくようになれば、誰にでも学校推薦が発行される状況とは大きく意味が違って来ます。だから僕は、実質的に学校推薦が有効になるようには活動したつもりですね。

学校推薦は、在学生と卒業生を"ハッピー"で結ぶ大切な「つながり」

金子 ただし、実際問題として内部選抜は難しいですよ。一つの専攻の中だけだとカリキュラムが同じだけれど、専攻をまたぐとカリキュラムや評価基準が違いますから、GPAだけを使うと教養や基礎科目の成績くらいしか比べられません。就職ではやっぱり専門科目も大事ですから、専門科目も頑張った学生が評価されなければならない。そこに矛盾が出ますから内部選抜は難しいですよ。だからこそ、ガイダンスや指導が非常に大事になってきます。内部選抜をしなくても良いような学校推薦状況になっていけば一番ハッピーでしょう？そのハッピーというのは、もちろんいま学校推薦を受けようとしている学生もそうですし、学校推薦を受けて就職していった卒業生だって就職先でハッピーにならないと、後輩たちを自分の組織に積極的にひっぱろうと思えなくなってしまう。だから就職企画室長の僕だけでなく就職企画室の先生たち全員が、どの専攻の学生たちにもハッピーになってもらうために**とても神経を使っている**と思いますよ。就職企画室が、お客様、つまり企業とのお付き合いを大事に議論しているのは、卒業後の学生にもきちんとハッピーになってもらうためということもあるんです。企業とのお付き合いが1年で終わりということはほとんどありません。来年も再来年も学生がそこへ就職していくわけですから、今年学校推薦で就職していく学生には、その企業でハッピーになってもらわなければならない。僕は学校推薦というものが、そのハッピーを来年も再来年も続けていくことだと思っているんです。けれども就職企画室の**先生たちだけが奮闘していても**学生はハッピーにはなれない、学生自身の努力も必要ですよ。進路ガイダンスでは、学生にそういうふう考えた方が良くということも話しましたよ。

研究科について

研究科長からのメッセージ
教育理念と目標・計画
情報科学研究科の組織
歴史・沿革
キャンパス環境
フロアマップ
ヴォイス

教員一覧

専攻・講座について

専攻・講座一覧
情報理工学専攻
情報エレクトロニクス専攻
生命人間情報科学専攻
メディアネットワーク専攻
システム情報科学専攻

教育活動・学務情報

カリキュラム
奨学金のお知らせ
(日本学生支援機構)
奨学金のお知らせ
(民間団体・地方自治体等)
ISTラウンジ
講義情報
学位論文題目一覧
学位申請
証明書発行
学生生活
学生支援事業
研究補助業務(RA雇用)

研究科ニュース

研究活動・産学官連携
研究業績
寄附講座, 連携講座
ネットジャーナル
研究関連写真集
受賞一覧
共同研究

入試情報について

就職情報
広報・発行誌
研究科からのお知らせ
関連リンク
交通アクセス

研究科について

About Us

研究科について

研究科長からのメッセージ

教育理念と目標・計画

情報科学研究科の組織

歴史・沿革

キャンパス環境

フロアマップ

ヴォイス

教員一覧

専攻・講座について

研究科ニュース

研究活動・産学官連携

教育活動・学務情報

入試情報

就職情報

広報・発行誌

研究科からのお知らせ

関連リンク

交通アクセス

HOME > 研究科について > ヴォイス > ヴォイス1・第1回

ヴォイス1・就職企画室インタビュー第3回

就職企画室の理想：どの専攻の学生にもチャンスは公平にあるように

—金子教授室に毛筆や絵画が飾られていますが、ご家族のものでしょうか。

金子 そうです、「つよい子」はうちの娘が小学校3年のときに書いたものです。この「時計」もそう、これは中学1年生のときのだね。あそこの絵は、娘の自画像ですよ。その下にあるのは娘が書いた僕の絵なんだけど、ほっぺたが異様に膨らんでいるから僕が太っているときに書いたんだ。僕は家族の写真をいつも持ってますよ。僕は単身赴任で家族は東京にいるから、こういうのを意識して持っているようにしているんですよ。意識して持っているというか、家族のものを周りに置いておくのが好きですね。あそこには、岐阜にいる僕の実の姉が描いた絵もありますけど、行くたびにもらってくるんですよ、僕から何か「くれ」と言って。そういうものに囲まれているというのは、やっぱり大事だと思いますよ。



今の話は就職企画室に関係ないと思われるかもしれませんが、人材育成という点で、若い人には誰かが自分を見てくれている、研究室でも自分の先生が近くにいるよっていう感覚を持ってもらうことが大事なんだと思いますね。だから、専攻の先生方全員が仲良くなった方が良い。学生は、自分の身をゆだねて専攻に入ってくるわけでしょう？だから、専攻の先生方がケンカしていたら絶対だめ。そのためには、やっぱり人のことを考えること。専攻内で言えば、他の研究室のことを考える、ということでしょうかね。自分の研究室のメリットについては自然に考えることができますよね。でも、他の人のことへの考えはどんどん小さくなりやすいから、他の研究室のメリットもあるかなと常に意識した方が良いでしょう、ということは専攻の先生方にもよく言うんです。それは就職企画室の活動にも関連していて、情報科学研究科には六つの専攻があって、それぞれにカラーがあるから、専攻同士の競争みたいなことが自然とおこるのは仕方がないですよ。ただ、それを学生の不利益にははいけない。競争自体は良いと思いますよ、僕の専攻内もいろいろなところを見ながら競争していますからね。でも、その競争は他を蹴落とす動きではなくて、自分のところを伸ばすという動きでしょ？それをみんながやっていたら、だんだん伸びてきますよね。どの専攻も研究科にとって大事な専攻なんですから、研究科を維持するという意識を持って、一つひとつの専攻を太いしっかりした柱にしていく、学生も含めて評価されていく専攻にしていくということはずごく大事なことです。就職企画室の活動でも同じようなことが起こりますから、就職企画室長としてはそういうことも気を遣いましたね。みんながハッピーになるような活動をするのが大事ですから、特定の専攻の学生が第一希望に学校推薦を持って行きやすいだとか、そういうことになってはならない。特定の専攻が有利とか不利ということは、極力起こらないようにする。そういう公平性がやっぱり大事ですよ。研究の分野によっては強い業界を後ろに持っているものと、そうではない分野がある。専攻の中にどの分野の研究室群があるのかによって、後ろに持っている業界の違いが専攻の差異として反映されて、専攻間でのアンバランスはどうしても生じてしまう。われわれはそのアンバランスを極力、学生の不利益につなげないようにしなければなりません。結果的にすべての専攻がチャンスに関しては公平になってほしいけれども、そうはならないかもしれない。でも、少なくともわれわれにできることは、どの専攻にいる学生にも、チャンスはイコールになるようにしてあ

サイト内検索 Google™

検索

情報科学研究科
公式twitter

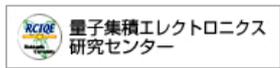


グローバルCOEプログラム

「知の創出を支える
次世代IT基盤拠点」

科学技術振興機構 ERATO
澳離散構造処理系プロジェクト

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク
Hokkaido University Sustainability Weeks



げなければならないね。そういうふうにならなければならぬ。就職企画室は運営されなければならない。学校推薦については、第1回目の学校推薦はチャンスが公平になっていると思いますよ。けれども1回目を受けて落ちたら、学生は第2回目の進路希望調査で第一志望を変えて学校推薦の申請をするでしょうか？そのときの学校推薦を承認する議論は迅速にしなければならぬ。特に第2回、第3回と、求人はどんどん埋まっていけますから、時間が進むほど進むほどより迅速に動いていかなければならぬ。そういう限られた時間の中で学生のメリットを最大にするにはどうしたら良いのかを就職企画室は考えていますよ。特に今年は事務担当の大須賀さんは大変でしたけど、就職企画室員の先生全員が最新の情報を共有できるように、就職企画室のホームページの情報を間違いのないように即更新するようにしましたよ。残されたチャンスを常に見られるようにして、たとえば、学生にそこに行くチャンスはもうなさそうだよ、と指導するといったように。6人の先生全員が把握するチャンスがすべてイコールになるように、どの専攻の学生にもそういう指導がイコールになるように就職企画室を運営したつもりですよ。そういう運営の結果は、学生の利益に即反映されてきますからね。

■ 研究科について

研究科長からのメッセージ
教育理念と目標・計画
情報科学研究科の組織
歴史・沿革
キャンパス環境
フロアマップ
ヴォイス

■ 教員一覧

■ 専攻・講座について

専攻・講座一覧
情報理工学専攻
情報エレクトロニクス専攻
生命人間情報科学専攻
メディアネットワーク専攻
システム情報科学専攻

■ 教育活動・学務情報

カリキュラム
奨学金のお知らせ
(日本学生支援機構)
奨学金のお知らせ
(民間団体・地方自治体等)
ISTラウンジ
講義情報
学位論文題目一覧
学位申請
証明書発行
学生生活
学生支援事業
研究補助業務(RA雇用)

■ 研究科ニュース

■ 研究活動・産学官連携
研究業績
寄附講座, 連携講座
ネットジャーナル
研究関連写真集
受賞一覧
共同研究

■ 入試情報について

■ 就職情報
■ 広報・発行誌
■ 研究科からのお知らせ
■ 関連リンク
■ 交通アクセス



研究科について

About Us

研究科について

研究科長からのメッセージ

教育理念と目標・計画

情報科学研究科の組織

歴史・沿革

キャンパス環境

フロアマップ

ヴォイス

教員一覧

専攻・講座について

研究科ニュース

研究活動・産学官連携

教育活動・学務情報

入試情報

就職情報

広報・発行誌

研究科からのお知らせ

関連リンク

交通アクセス

HOME > 研究科について > ヴォイス > ヴォイス1・第3回

ヴォイス1・就職企画室インタビュー第3回

キャリア支援は就職企画室員が一方的に作るものではない

—今回のインタビューを学生、そのご家族の方が聞いたらとても心強いと思います。

金子 心強いと思ってもらえるのとありがたいけど、その分けっ
こう就職企画室員は大変ですよ。企業との面談にも時間拘束さ
れるし、やっぱり神経使いますよ、間違いがあってはいけない
ですからね。学生は一生に1回、就職で一生を決めるものでは
ないとは思いますが、一生を決めないからといってキャリア
支援の運営をいい加減にされては学生がかわいそうですよ。だ
からちゃんとやらなければならぬ。でも僕は事務仕事が不得
意なんですよ。研究室も秘書がいなくてやっていけないし、就
職企画室も大須賀さんがいるからやっていけました。僕はむしろ
人材育成というか、人を見て「あなたはこの力がすごいね」
とか「君はこれに向いているね」ということを言うのは得意な
んですよ。でも、きちっと決められた形式が要求される事務仕
事は得意ではないから、研究室のそういう仕事は秘書に全部ま
かせています。それ以外のこと、気持ちとか、心とか、何か起
こったときに責任とるとか、そういうことはやります。就職企
画室についても、学校推薦が間違いなく発行されていかなければならぬという仕事は僕は得意じゃ
ないから、大須賀さんのサポートは本当に強力でしたよ。だから情報科学研究科の事務のサポートはあ
りがたいと思いますよ。そういう意味では、学生はメリットをすごく受けていると思いますね。それ
に、就職企画室に限った話ではないですけど、基本的にはキャリア支援という活動自体も僕らが一方的
に作るものではないと思っています。そういう意味では研究室の運営と同じで、キャリア支援とい
うものに学生も参加してほしい。研究室運営を例にするとわかりやすいけど、研究室にはスタッフが
いて、学生がいて、秘書もいる。スタッフが全部作ったところに学生がお客さんでいるんだという意識
では絶対だめ。学生も作る側、作っていく一員なんです。研究室の利益をいただくという立場だけじゃ
ない。自分が作った研究室だからこそ、後輩の面倒を見たり、先輩として遊びに帰って来たりする。だ
から、以前話した「人にかわいがってもらうことが大事」というのは、そういう意味なんです。



—去年コンピュータサイエンス専攻で学生が主催した研究室対抗のイベントがありました。そう
いった学生の主体性を重視する先生が他の専攻にもいらっしゃるといのは、やはり、研究科として先
生たちが学生に「こう育ってほしい」といった共通の想いが出ているのでしょうか。

金子 大学というのは、そういうスタイルの活動がしやすいんじゃないですか。情報科学研究科がで
きて7年経って、研究室がかなりまとまっていますからね。でも大学だけではなく、小学校も中学
校も、やっぱり参加型というのはいまは大事なんじゃないですか。特に少子化傾向があるから、家庭
の中では子供たちはお客さんのような存在でしょうか。だからせめてそういう学校とか地域社会に、自分
から参加していくというのは、すごく大事になると思います。僕の研究室での活動、就職企画室員とし
ての活動は、いちいち研究科の先生方全員の考え方を聞いて合わせたり、研究科の理念を意識して合わ
せようとしているわけではないけども、自然に考えていると合ってくるんじゃないですか。それに僕
は、最近の学生が参加型を好まなくなってきたということでもないと思いますよ。基本的には人間という
のは100年、200年では変わらないと思いますから。ファッションとか髪型とか言葉づかいとか、そう
いう人間の「うわつら」は影響されやすいですけど、10年、20年で人間はそんなに変わらないですよ。

サイト内検索 Google

検索

情報科学研究科
公式twitter



グローバルCOEプログラム
「知の創出を支える
次世代IT基盤拠点」

科学技術振興機構 ERATO
濃縮散構造処理系プロジェクト

北海道大学
サステナビリティウィーク
Hokkaido University Sustainability Weeks



僕の研究室には学生の研究室長がいて、今は修士課程1年の女子学生がやっていますよ。実際の予算の権限は持たせていないけれど、研究室の中で「コンピューター壊れたから修理に出してくれ」「あの物品買ってほしい」という声を受けて、彼女がいろいろなことを決めていますよ。偉いでしょ？でもそれは、訓練のひとつでもあるんですよ。彼女は企業との共同研究をやっていますけど、その議事録もとっていますよ。最初は議事録なんて書けませんけど、外の人に見てもらったりしながら、書けるようになりますよ。すべてが訓練ですからね。僕の研究室にはいろいろなルールがあって、そのルールは「大臣」っていうのが決める。コンパ大臣から始まっているんな大臣がいて、彼らが研究室のイベントのスケジュールだとかを全部決めています。それは学生たちが伝統でやっていますよ。だから、就職企画室の活動全般も、進路ガイダンスも、僕のやり方としては学生に「参加してね」という意識でいます。キャリア支援というものに対しても、君らも参加して、たとえばGPAを自分で計算するとか、自分でカタログを集めるとか、ホームページを調べたりして参加してね、という意識です。たとえば博士後期課程の学生なら、自分のホームページは持っていた方が良いでしょう。自分で自分を外にアピールできるわけですから。僕は、ドクターは自分でアピールして、自分を採ってくださいという活動をして全く問題はないと思っています。自分のホームページを作って、そこを企業の人が見て、就職企画室を介さずに自分で進路を決めていくということもありえますよね。だから、そういうふうになってくると、自分も参加するっていうことがすごく明確になってきますよね。就職企画室の先生ももちろん奮闘しますが、学生も自分参加型のキャリア支援っていう姿勢になってくると、僕は一番良いと思いますね。

(2012/01/11)

<第2回に続く>

▲ページの先頭へ

■ 研究科について

研究科長からのメッセージ
教育理念と目標・計画
情報科学研究科の組織
歴史・沿革
キャンパス環境
フロアマップ
ヴォイス

■ 教員一覧

■ 専攻・講座について

専攻・講座一覧
情報理工学専攻
情報エレクトロニクス専攻
生命人間情報科学専攻
メディアネットワーク専攻
システム情報科学専攻

■ 教育活動・学務情報

カリキュラム
奨学金のお知らせ
(日本学生支援機構)
奨学金のお知らせ
(民間団体・地方自治体等)
ISTラウンジ
講義情報
学位論文題目一覧
学位申請
証明書発行
学生生活
学生支援事業
研究補助業務(RA雇用)

■ 研究科ニュース

■ 研究活動・産学官連携
研究業績
寄附講座,連携講座
ネットジャーナル
研究関連写真集
受賞一覧
共同研究

■ 入試情報について

■ 就職情報
■ 広報・発行誌
■ 研究科からのお知らせ
■ 関連リンク
■ 交通アクセス